



# 奈良の未来を創る

## ～「奈良で暮らし、奈良で働く」 「奈良を訪れ、奈良を楽しむ」～



奈良県知事 荒井 正吾

二〇一〇年まで二百日余りとなり、平城遷都1300年祭の開幕がいよいよ間近に迫ってきました。地方自治体が行う事業としては異例ですが、閣議了解をいただくとともに、各界を代表する方々から構成される記念事業推進委員会など三つの委員会が設立され、国家的・国民的の事業として展開するための体制が整いました。平城遷都1300年祭が我が国と東アジアの発展を願う、意義あるお祭りとなるよう、その準備に全力を尽くしていきます。

さて、百年に一度と言われる世界的な金融危機により、雇用不安、景気後退が深刻化しています。本県は、輸出関連産業の立地が少ないこともあって、解雇、雇止めといった現象はほかの地域ほど顕著には現れておりませんが、景気の後退は、県税収入の大幅な落ち込み等、県政にも深刻な影響を及ぼしています。

しかし、こうした困難な状況のときこそ、「奈良が良くなるように」と心を込めて、県政運営に取り組みたいと思います。

### 県政運営の基本方針

奈良県政の発展に向け、持続可能な財政運営を維持しつつ、次の四つの姿勢の下、県政諸課題に対応していきます。

- ① 県庁自らが積極的に行動します(県庁力)、② 協働と連携に努めます(連携力)、③ マネジメントサイクルを着実に実行します(継続力)、④ 公正で透明性の高い行政を進めます(公開力)

### 県政が目指す方向性

「雇用・消費・投資が県内で循環する奈良」、「住んでよし、訪れてよしの味わい深い奈良」を、県政が目指す方向として掲げ、この実現に向け、「経済活性化」と「くらしの向上」という二本柱を中心に施策を進めていきます。

### 「経済活性化」で地域のくらしを支えたい

#### ① 企業立地と県内企業の活性化

まず、企業誘致と県内企業の活性化に向けて、しっかりと土台作りをしたいと考えています。先を見越して今のうちに企業にとって魅力的な用地を準備しておくため、土地利用計画等の見直しから着手するとともに、企業立地用地の魅力を高めるためインフラ整備を進めていきます。

#### ② 平城遷都1300年祭と国営公園化を契機とした観光振興

また、1300年祭を一過性のものとして、平城宮跡の国営公園化とあわせて、より多くの人が訪れ、奈良の良さをじっくりと味わってもらえる契機となるように、観光地奈良のイメージチェンジを図ります。そのため、世界一の公園を目指した奈良公園の整備など「魅力の向上」、オフシーズンの対策など「弱点の克服」、宿泊力の充実やおもてなしの向上といった「サービスのグレードアップ」などに重点的に取り組めます。

#### ③ 県内消費の拡大と雇用促進

さらに、県外に流出している雇用と消費

をいかに取り戻すかが課題です。これまでに、奈良は、大阪のベッドタウンとして良好な居住環境が形成されてきた反面、人口一人当たりの飲食店数が全国最下位レベルにあることから、今後はまちづくりと一体となった商業振興に力を入れて、併せて雇用・就業機会の創出に取り組めます。

### 「くらしの向上」今できる課題にチャレンジ

#### ④ 医療の充実

身近な暮らしの安全・安心という面では、地域医療の問題が最重要課題です。地域全体で医療提供体制を支える仕組みづくりを進めるため、引き続き奈良県地域医療等対策協議会において、地域医療の方向性をとりまとめたいと考えています。特に、医師・看護師確保対策と地域的偏在の解消に向けた取り組みを進めていきます。

#### ⑤ 福祉の充実及び健康

障害者や高齢者が必要なサービスを適切に受けられるようにすることや、子育て支援にもしっかりと取り組んでいきます。また、運動不足の解消、食生活の改善、がん予防等の対策を推進し、県民一人ひとりが健康づくりに取り組む健康長寿の奈良県を目指したいと思います。

以上のような考えをもとに、直面する難題にたじろぐことなく、1300年祭関連事業はもちろん、企業誘致、雇用対策、地域医療改革など、奈良の未来を創る取組みを積極的に行ってまいります。